

福岡市胃がん検診 同意書

【胃がん検診の目的と方法】

福岡市胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、早く治療をする目的で行われています。その方法には、バリウムを用いる方法（胃 X 線撮影）と内視鏡を用いる方法（胃内視鏡検査）があり、いずれもその効果が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

【胃内視鏡検査の方法】

口から胃内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸を内腔から観察し、病気を探します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。また、色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。

なお、生検が行われた場合は、生検については保険診療として別途請求があります。当日は健康保険証を持参して下さい。また、生検により粘膜に傷がつきますので、検査後当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べて下さい。過激な運動、長湯、旅行なども避けてください。

【偶発症】

偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検診では 10 万件に 87 件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

- 1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（穴があくこと）
- 2) 生検による出血、穿孔
- 3) 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- 4) 検査前からあった疾患の悪化（症状が出ていなかった疾患も含む）

なお、当院では偶発症の防止のために十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。

令和 年 月 日 医師氏名 _____

上記の事項について説明を受け、十分に理解しましたので、その実施に同意いたします。

令和 年 月 日

受診者署名 _____

受診者代理署名 _____ (続柄)